

平成青木時報

2014年（平成26年）2月1日 第8号 発行：平成青木時報編集部 題字：三四六

女性が元気！青木村 女性団体連絡会交流会開催

1月19日、文化会館で女性団体連絡会交流会が行われた。情報交換する場にしてほしいと小林北コ会長が呼びかけ、各団体の代表者80名ほどが集まった。参加者は女性ばかり。ゲストで呼ばれた平成青木時報編集部男性陣は、勢いに押されつつも女性の前向きなパワーに驚嘆した。

昼食づくり、小学校金管バンドの演奏会、会長のご挨拶とイベント目白押しだったが、青木村NIきたい会の会長、清水香志子さんによる「杜仲（とちゅう）で青木村を元気に」という講演が印象的だった。

同会は平成21年11月に発足。7人のメンバーで、杜仲を栽培・収穫、お茶や蕎麦に加工している。杜仲の原産は中国西部。戦後、日本に薬効として輸入され、各地に広がっている。青木村でも大々的に苗を植えた歴史があるが、ブームは過ぎ去り、ほとんどの畑はそのまま放置されているのが現状だ。

杜仲畑を再生させようと整備に奮起したところ、村の寒暖差が栽培に適しているらしく、良質な葉っぱができたそうだ。里山保全のために畑を蘇らせて活用したい。村の特産品として杜仲を売り出したい。美しい村の風景をひ孫の代まで残したい。生産から販売まで青木村でできるようになれば、人を巻き込んで村が活性化し、雇用にも結びつく。青木村に「来たい」と「期待」をかけた名前をつけたのは、村の未来へ夢をつなぐためだろう。



青木村NIきたい会会長
清水香志子さん



女性団体連絡会会長
小林北コさん

取材を通して改めて女性のたくましさを実感した。新しいことに挑戦するフットワークの軽さは素晴らしい。今後も元気な笑顔の女性たちの活動に、注目していきたい。最後にこの場を借りて、私たちの活動紹介のため、お招きいただいたことと取材に際していただいたことに感謝したい。（山唄）



青木小金管バンドの演奏



調理実習で作られた料理



私たちが活動を紹介させていただきました



食事をいただきながらの交流

青木時報を学ぶ

大正 12 年 2 月 1 日第 15 号より抜粋

號 五 一 第

報 時 木 青

行 發 日 一 月 二 年 二 十 正 大 (二)

一月の青木村

一日——例によつて學校に於いて祝賀式舉行、参列者約八十名。そこらの雀曰く「元節にはこの三分の一も来まい」。式終つて簡單に宴會開かれ村長を筆頭に所感を述べ、氣焔當るべからず、元旦早々青木村はたのもしきかなと思はず。

六日——補習學校(男子部も)はしまる。中々成績よろしき如し。

全日——本年の初受付『死産届』續いて『埋葬認許證下附願』にはじまる。どうも世の中の出来事は縁起をとつてはをらぬ様なり。

八日——入營兵士出發。今年から十日の入營なので一寸面白し。八日堂ついでに上田までゆくもの多く電車満員『來月産み月の人が乗つてゐるだが電車の中で産まなければようござわすがなア』など囁きさへもおかし

十二日——消防出初式、小巡檢行はる。例によつて例の如し。但し折柄の強風に情況を興へて火事のまねをして見ただけ見物大喜び。

十六日——同窓會總會開かる。男より女の方が出席多し。青木の街は若い娘さんご長い襟巻で美しく賑ふ。凍み激し——今年珍らしく凍みはげしく勝手元で『おんなしゆう』頻りにこぼす。年始客など餘り大平をならべず少しは察しやるべきなり。

役員改選——消防組、總代、青年會支部などところぢゆうに役員改選行はる面倒臭いので『前通り』などいふ投票多かりし如きは笑ひ事に非ず。當選して當惑してゐる人。内心ホッとしてゐる人。中には密かに運動して落膽してゐる人もあるべし。雀曰く『さても人間は心配なもの、哉』

廿一日——時報編輯、窓より眺れば春雨の如き雨しごとく降り。枯艸の土手に青き芽見ゆるに心こきめく(森)

1月の青木村

1月の村内の出来事が書かれていた。

1日、學校において祝賀式が行われたとのこと。

8日、上田市の信濃国分寺八日堂縁日に行く人が多く、青木から上田に行く電車が満員。妊婦の方が乗つていて「電車の中で産まなければならないようござわすがなア」とささやきが聞こえたそう。約90年前の人々の生活が想像できて面白い描写。

12日は消防出初式。偶然にも今年と同じ日取りだった。

16日は同窓會總會が開かれ、男性より女性の出席が多く、若い娘と長い襟巻で賑わっていた華やかな様子が書かれている。

また、1月は消防、總代(区長)、青年會支部など各役員改選が行われていた。人々の心境まで描かれている。現在も残っている風習が多いのは興味深い。「さても人間は心配なもの、哉」と締められている。

当時の暮らしぶりを垣間見ることが出来る青木時報は、貴重な史料であると共に、村民の財産であることを再確認した。

青木人

題字：三四六

Vol. 5

～活力ある青木村民をたずね歩く～

昭和3年2月、お隣の旧坂井村(現筑北村)生まれ。信大病院や王滝村で醫師をされた。当時の宮原栄吉村長から要請を受け、昭和36年に青木村に移り住む。その頃は遠い集落からの来診は容易ではなく、往診も多かったとのこと。流行病が蔓延したときは、駆けずりまわるような往診が続いたそうだ。

昭和45年国保直営診療所廃止に伴い、青木診療所を現在地に開設し、現在に至っている。有線放送を使った保健や病気についての情報を村内に提供もした。過去に3期、小県郡医師会長を務めたこともある。

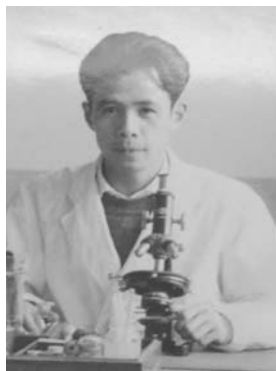
長年青木村の地域医療に尽力され、平成23年には名誉村民に表彰された。また、信州昆虫資料館の代表も務める。中学校時代、ファーブル昆虫記がきっかけで、昆虫に興味を持ったと話して下さった。

「ここに骨を埋めるつもりで来た。皆さんの役に立ちたい」と語っていただき、頭が下がる。50年以上にわたり多くの青木村民を今日も診療し続けて下さっている。4世代にわたり診療していただいている家庭もあるのではないかと敬意を表し、青木人として紹介させていただいた。

(山浦)



小川原 たつお 辰雄さん



青木村に来た当時のお写真

バレンタイン特集

お世話になっているあの人にチョコを。プレゼントにオススメの一品を紹介☆

ショコラバウム ¥1500

期間限定発売！！ビターチョコをふんだんに使っており、レンジで温めるとふわっとした食感に。そば粉を使っていないのでそばアレルギーの方も安心。

ショコラバウムを食べて幸せになってほしい。願いを込めて作っているので贈り物にぴったり。

道の駅あおき、クロスロードあおきで購入できる。2月3日の青木村節分会でも販売予定。

注文・お問い合わせ **クロスロードあおき** 0268-49-0604



米粉チョコブラウニー ¥315

RAWチョコバー ¥315

ブラウニーは米粉、カカオパウダー、ヤーコンシロップ使用。小麦粉は使っていない。(写真左)

チョコバーはRAWカカオパウダー、ヤーコンシロップ、ナッツ類で作られた贅沢チョコ。RAWは低温加工のことで、加熱していないので栄養と風味が損なわないという。砂糖を使わず、ヤーコンシロップと天然の素材の甘さのみ。(写真右)

注文・お問い合わせ (株)よしとも 0268-71-0226

info@e-yoshitomo.com



バレンタインセットは、ブラウニーが2つ+チョコバーが4本で¥1890。

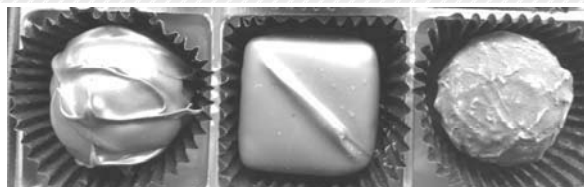
バレンタイントリュフ(3個入り) ¥580

オレンジット ¥600

トリュフは色鮮やかでかたちも可愛らしい。友チョコや自分へのご褒美にもいいかも(写真上)。

オレンジットは一押しチョコ。オレンジピールをチョコでコーティングしており、甘さとほろ苦さを兼ね備えた大人の味(写真下)。他にも2月限定ショコラスイーツを取り揃えているのでぜひお店に。

注文・お問い合わせ **洋菓子マリアン** 0268-24-7645



廃車 **どんな車でも** **買い取ります!!**

故障車 **ディーゼル車** **過走行車** **事故車**

アクセル 廃車 検索

☎ (0268) **38-8855**

株式会社 アクセル 長野県上田市手塚 131

福だるま市

中挾豊受皇大神宮おたや祭り開催

1月13日、6時の花火を合図に、豊受大神宮にて毎年恒例だるまの販売が始まった。小さきだるまが並び、露店も立ち並び、お祭りらしく賑わっていた。上田市など村外からいらつしやっている方も。そして、子檀嶺神社の宮原満宮司によるご祈禱も行われた。

村内の細谷から来られた方にお話を伺った。「毎年だるまを買っている。健康に1年を過ごしたい。」やはり祈願を込めてだるまを購入されたようだ。両目とも入る日が待ち遠しい。

編集部の世代では、だるまは実家にあるという認識で、自室に置く習慣が少ないため、もしかしたら年々購入が減っているのではないか。失礼を承知で東川日出夫社社長に尋ねたところ、「若い世代はだるまを買わない傾向があるので、減っているかもしれない。だが今年も多くの方にお越し頂いた」とのこと。子連れの若い方もいらつしやったので、伝統は着々と受け継がれるかもしれない。村の伝統おたや祭り。未永く続くことを願う。(K)



宮原宮司による祈願の様子



多くの方がだるまを買い求めていた

編集部からのお知らせ

○神楽殿サウンドフェス

杓掛区宮淵神社には、村の重要文化財で江戸時代に建てられた神楽殿があり、村内唯一の回り舞台もあります。

春先にその神楽殿においてイベント開催が決定！長年使われていなかった回り舞台が復活する瞬間をお見逃しなく。詳細は次号にてお知らせします。

日時…3月9日(日) 13時～

場所…宮淵神社(リフレッシュパークあおき隣)
内容…義民太鼓保存会による演舞など
主催…平成青木時報編集部
お問い合わせは編集部まで。



平成青木時報は、青年グループ「泥百笑(どろひやくしょう)」が、平成25年度長野県地域発元気づくり支援金を活用し、制作しています。

信濃毎日新聞 日刊 スポーツ
朝日新聞 スポーツニッポン
毎日新聞 日刊工業新聞
日本経済新聞 週刊上田

新聞のご用命は・・・

東郷堂

青木村の新聞配達は私達が担当しています。

小宮山克子 TEL: 49-2180
増田 久義 TEL: 49-2880
林 真理 TEL: 49-2726



ご意見・ご感想お待ちしております。寒い日が続いております。お体ご自愛ください。

平成青木時報編集部 代表 山浦和徳

電話 090-2308-8270

メール aokijiho@gmail.com

ホームページ <http://doro100sho.jimdo.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/aokijiho>

Twitter @aokijiho